

国産材活用証書発行システム

「3・9ペーパー」積極展開

市瀬（東京都千代田区）がつくった、グリーン電力や排出権取引のように第三者が検証する間伐材利用促進のための仕組み、国産材活用証書発行システム「3・9（サンキユー）ペーパーシステム」に注目が集まっている。同社はCSRの観点から森林を保有する企業などに同システムの活用を呼びかけており、その活動は全国に広がり始めている。また、「木」をテーマに様々な環境活動などを展開する「ハートツリー」（東京都港区）はこの仕組みを活用し、奈良県吉野郡の森林活用を図る独自の取り組みも始めている。

市瀬、ハートツリー

京都府定書で日本が課せられる国産CO₂削減率マインナス8%のうち、マインナス3・8%が森林吸収分として算出されている（スタート時はマインナス3・9%とされた）。しかし、多くの日本の

森林は整備が行き届かずに残された状態となっており、その機能が十分に発揮されていないのが実情だ。また、国産材はあまり使用されておらず、資源の有効活用の中でも不十分な状態だ。こうしたなか

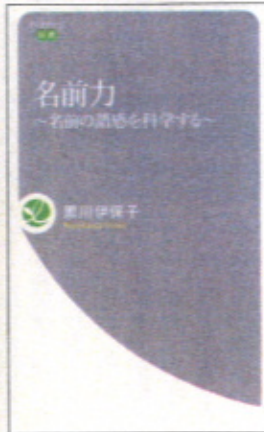
森林は整備が行き届かずに残された状態となっており、その機能が十分に発揮されていないのが実情だ。また、国産材はあまり使用されておらず、資源の有効活用の中でも不十分な状態だ。こうしたなか

市場に流れていない国産材（低質材）を製紙原料として有効に活用することで、森林を循環させ低炭素社会を構築していくことを目的に作り出されたのが3・9ペーパーの仕組みだ。

木材そのものは国産材が高価なわけではなく、製材所やチップ工場までの輸送費や搬出コストが割高になってしま



う。チップ工場の買い取り価格と輸送コストが逆転している状況が打破しなくては国産材の使用量・自給率を高めることが難しい。そこでCSR



（左）吉野の森の再生プロジェクトに3・9ペーパーを活用（右）丸ごと間伐材を活用した書籍「名前力」

に取り組みの団体などから国産材有効活用経費を募り、流通経費として有効活用するスキームを構築した。3・9ペーパーの製品に含まれる紙代の一部は、国産材有効活用経費として国産木材の輸送費などの流通コストに使用され、国内木材の利用量の増加に役立てられ、CO₂吸収源増加につながる。

また、日本の森林は針葉樹が多いことが森林活用の阻害にもなっている。印刷用紙などには広葉樹の方が適していると言われる。こうした状況から「みなし型」としてのが大きな特徴だ。

国産材10tを搬出するための運送費を支払えば、有効活用した買戻に対する印として10%分の紙に林野庁推奨の3・9グリーンスタイルマークが付けられる。用紙自体には国産材は使われていないが、使用したとみなしてマークを付与し、実際はクラフト紙など針葉樹の特性を生かした原料として活用する。この仕組み全体を第三者であるF&Eジャパンに審査を受けている。

ハートツリーではこの仕組みを活用し、独自に展開する奈良県吉野の森の再生を柱とする資源循環モデル推進プロジェクト「吉野ハート」と合わせ「吉野3・9ペーパー」として、ユニークな活動を展開している。これまでメモ帳、CD紙ジャケット、地元吉野神宮のパンフレットなどに3・9ペーパーを採用している。また、日本で初めての仕組みで1冊丸ごと間伐材を活用した書籍「名前力」（黒川伊保子）も出版された。

今後の課題については市瀬やハートツリーの関係者は、「認知度のさらなる向上」と「価格面でもっと理解を得るか」を挙げる。このため、一般への普及啓発や企業に理解を求める活動に一層注力していく考えだ。